

目標達成計画

作成日: 令和5年4月13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 3 17 46 47 48	認知症の進行や重度化で入居者の想いや意向を確認する事も難しくなり、個別ケアが十分に出来ているのかと模索している状況にあり、ともしれば画一化したケアに陥りやすくなっている。個別ケアを継続し充実させるためにもアセスメントやモニタリングが重要であるにもかかわらずその取り組みは後回しになる傾向にある。 新型コロナウイルス感染症も終息の兆しが見えず、まん延防止の為にご家族や地域の方々と交流する機会が制限されている。	1)入居者の想いに寄り添い、一人一人に必要な支援を担当職員自らが発信し情報を共有化して、チームケアの実践力を高める。 2)グループホームの特性を生かした地域貢献活動を実践し、認知症ケアについて理解を深める。	①担当職員がしっかりアセスメント・モニタリングを行い、個別に必要な支援を提案し、職員間で共有し、チームケアが出来る。又ケアの質を向上させるためにLIFEを活用していく。 ②両ユニットの職員で連携協力してレクリエーションやストレッチなどの体操や食事前の嚥下体操等を実施する。 ③各種研修会に参加する機会を増やし、特に認知症や看取りについての学びを深める。(認知症実践者研修や喀痰吸引研修等) ④情報を共有化するためにも記録類のICT化を進め、その準備段階としてケア内容の記録を紙からPC入力に切替える。 ⑤地域の人々が癒しや情報交換の場となる認知症カフェ(ルルドカフェ)を再開し地域の方々と交流する。	12ヶ月
2	25	グループホーム単独での防災訓練・避難訓練等は実施してきたが、マニュアルの見直し迄には至っていない。又、聖母の丘本館職員との連携協力体制についても、当事業所からの積極的なアプローチが不足していることは否めず、合同での訓練も一部の職員が参加した程度である。	3)感染症や非常災害を想定した訓練とマニュアルの見直しを適宜行い、全ての職員が、非常時の対応を実践できる。	①感染症や非常災害等を想定した業務計画の作成を行う。 ②聖母の丘本館(特養・養護)職員にも防災・避難訓練に積極的に参加してもらえるような働きかけを行い、応援体制が円滑にできるようにする。	12ヶ月
3					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。